長畝ふるさと通信

【2021年11月号】

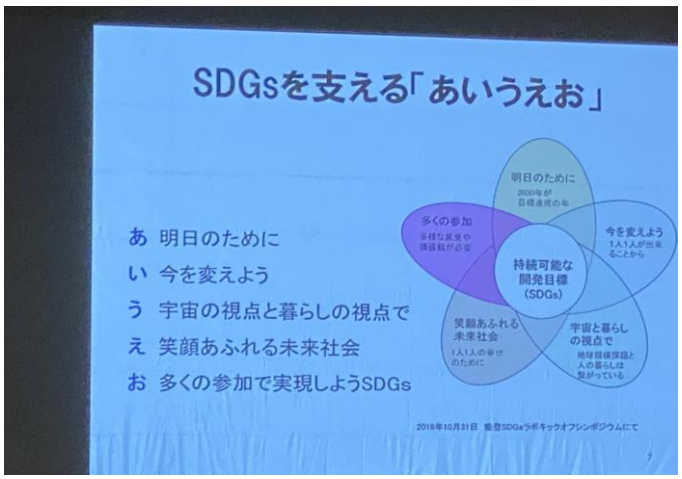
■　ネオニコ系農薬は使っていません

１１月６日にTBS「報道特集」で放送された「ネオニコ系農薬　人体への影響」は大きな反響があり、組合にも消費者やお米屋さんから多くの問い合わせを頂きました。

ネオニコチノイド系農薬は世界中で最も使用量の多い殺虫剤と言われ、一方で欧州などでは規制がかけられ始めています。効果が持続する期間が長いために、農薬使用量を減らした「減農薬栽培」が可能と言われ、平成５年頃から日本でも使用されている殺虫剤の総称です。ミツバチの大量死や赤トンボの激減など生きものの生態系に悪影響を及ぼすと言われ、その成分が分解されず体内で蓄積されていくことから人体、特に子供への影響も大きいとされています。国は使用方法さえ間違わなければ問題ないとしていますが、佐渡では平成２３年頃から稲作での使用を取りやめています。消費者からは「ネオニコ不使用のお米を探していました」との声や、一部では「そのお米は美味しいの？」といった間違った解釈をされている声もありました。テレビの影響力を再認識させられました。

■　佐渡の未来は明るいか・・・佐渡未来講座で思ったこと

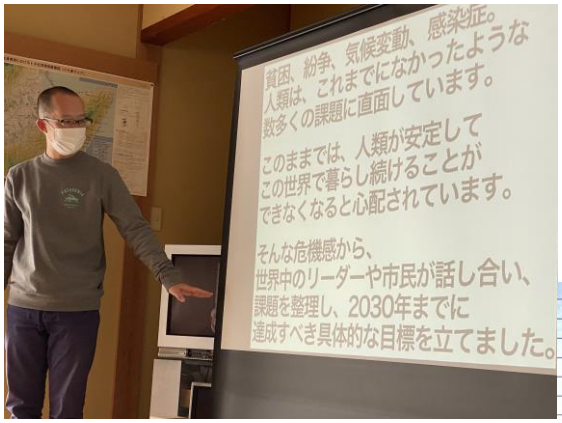
１１月２１日に開催された「佐渡未来講座」に参加しました。地域環境戦略研究機関の理事長はじめ、元環境事務次官やら前農林水産事務次官など錚々たる顔ぶれの「佐渡市総合アドバイザー」の先生方が講演されました。中でも国が進めようとしている「みどりの食料システム戦略」は２０５０年までに２５％の農地を有機農業にするそうで、環境負荷の軽減に加え、付加価値を付けた新しい市場を創設するのだそうです。コメ消費離れと米価下落に苦しむコメ百姓にとって明るい材料となるのでしょうか。この戦略に乗ることで、経営もプラスに転じ地域貢献もできるとなれば、まさに次世代農業のモデルとなりうることでしょう。



産業革命以降、人類は大量生産、大量消費、大量廃棄を繰り返し、その結果地球は今悲鳴を上げています。人類の進歩が地球の許容範囲をオーバーしてしまったことに気づいた今、慌てて2030年までに立てた目標がSDGsです。いきなり「未来を決める決定的10年」なんて脅されても多くの人々はピンとこないと思います。「最近やたらと異常気象で自然災害が多いわね」「コメの高温耐性品種の開発が進んでいるらしい」など身近な話題にあがっては来るものの、「どうすりゃいいのさ」「どうにもならない」と避けてしまいがち。講壇に立った先生方も「トキと共生する佐渡の里山・里海を世界モデルとして注目されるようみんなで意識改革を進めましょう」と発破をかけますが、誰がやるんだろう・・・今すぐにできることと、うんと先にやらなければいけないことを分けて考えよう（ボクにはうんと先はないけど・・・）。

■　収穫感謝祭もSDGsです

11月28日、第16回目の収穫感謝祭を行いました。「長畝さんはこんな時期でも祭りはやるの、立派だわ」と周囲からうらやむ声が聞こえてきます。やりますよ、やらない理由が見つかりません。



まずは早速、地元中学校の先生をお招きしてSDGsの勉強会。SDGsを初めて聞くおじいさんから分かった振りするお母さんまで、皆真剣にお話を聞きました。日本のSDGsの取り組み実績は世界第17位だそうで、ヨーロッパ諸国に大きく遅れをとっているそうです。

餅つき大会では今年も元気坊主が主役。一段とパワーアップして汗だくになりながらついてくれました。おにぎりよりも圧倒的にもちの方が人気があり、4升ものもちはあっという間になくなりました。

SDGsが定める17個の目標の中に「住み続けられるまちづくり」があります。長畝で育った子供たちが将来も住み続ける地域づくりから取り組んでいこうかなと、今できることはそのくらいか・・・
次世代農業モデルも気になるけど踏み出す勇気と資金が足りないな。